

# 公社)日本産業衛生学会 第 11 回騒音障害防止研究会

場所： 第 87 回日本産業衛生学会（岡山市）  
岡山コンベンションセンター 第 6 会場（301 会議室）

日時： 2014 年 5 月 24 日（土）8：30～9：50

## プログラム

### 事例検討

---

座長 堀江正知（産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学）

#### 1. 騒音職場×通信機器 現状と対策

中尾 智  
株式会社アルバック

我が国では、イヤホンやヘッドホンの音声は騒音性難聴の原因としてそれほど認識されていない。また、海外のヘッドセットからの音声ばく露調査は、散見され、ハザードとして一部認識されている程度である。特に、騒音職場とイヤホンの組み合わせにおける評価・対策は殆ど認めない。

本件における実態調査および対策の一例について、①イヤホンからのばく露測定、②産業現場で使用されているイヤホンの遮音値・語音明瞭度測定、③遮音性のあるイヤホンの現場介入結果の 3 点を報告する。

#### 2. 騒音健診有所見者に対する事後措置の一例 ～造船職場の現状～

新見 亮輔  
JMU 株式会社 呉事業所

JMU 呉事業所では、「自分の耳にあった耳栓を正しく着用させる」を目標に、騒音対策を進めてきた。今回は、2012 年から騒音健診の有所見者に対しておこなった一連の事後措置について紹介する。

事後措置を進める中で、「自分の耳にあった耳栓をする」という点は、比較的容易に一定の成果を収めた。一方、「正しく着用させる」点に難渋したため、正しく着用しない理由について深掘りして調査したところ、徐々に従業員が、耳栓を正しく着用していない理由が明らかになってきた。